

## 平成 20 年度第 1 回総合計画審議会

○ 平成 21 年 1 月 8 日(木) 午後 1 時 30 分から午後 4 時 30 分

○ 会場 南魚沼市役所 本庁舎 2 階 大会議室

### ・委員

出席者 宮下 茂会長 塩谷 成一副会長 中沢 一博委員 南雲淳一郎委員  
佐藤 剛委員 井上 正三委員 関 昭夫委員 腰越 晃委員  
峠 英男委員 井口 光雄委員 黒井 安雄委員 湯本 真弓委員  
鈴木 利子委員 高野 孝子委員

欠席者 南雲 眞一委員

### ・市

井口 一郎市長 小原 元久副市長 遠山 正雄教育長 平賀 道朗水道事業管理者  
高野 洋一消防長 田中 敏晴総務部長 桜井 文夫市民生活部長  
高野 紀久一福祉保健部長 上村 博産業振興部長 上村 雄一建設部長  
阿部 均教育次長 高野 正大和市民センター長 遠田 正一塩沼市民センター長  
西野 辰夫消防署長 (事務局) 岡村 聡企画政策課長 北村 祥博主幹

1. 開会 岡村企画政策課長

2. 市長挨拶

#### 【出席者自己紹介】

第一次総合計画 第 2 次委員では初めての審議会であるため、各自自己紹介

3. 会長及び副会長の選任

会長 宮下 茂委員

副会長 塩谷 成一委員

4. 会長及び副会長の挨拶

5. 諮問 市長から宮下会長へ諮問

6. 議事

(1) 平成 21 年度総合計画実施計画について(各章について担当部長等から説明)

#### 【質疑】

一. 保健・医療・福祉

□佐藤委員 : 認定こども園・保育園改築について、浦佐は、幼稚園と保育園の合体で、両方のいいところ取りができるが、余川は、老朽化による改築に伴い認定こども園にするという方向性を出した考え方を聞きたい。

■高野福祉保健部長: 認定こども園については、浦佐が先行しており、国・県と調整中。

始まったばかりの制度で、今年度内には国・県の方針が出る。余川保育園は、同じ地域内に私立の幼稚園があり、認定こども園制度を取り入れるという動きがあるため、そちらの動向を見守りつつ、認定こども園か保育園か、国県の法整備の行方も見ながら、検討していく。

□井口委員　：新しい制度である認定こども園の概要を説明願いたい。

■高野福祉保健部長：幼稚園機能と保育園機能を併せ持った中で運営していくもの。両者のよい所をとり、当市では、一体的な施設を合築するもの。文部科学省と厚生労働省の所管。都会では、幼稚園は空きがあるが保育園の待機児童が多いため、幼稚園の空いたところを利用し、保育園の待機児童の解消をしたいというのが制度の始まり。市としても、改築・新築の時期にあわせ、公設民営の方向で制度を取り入れていきたいという考え。

□腰越委員　：魚沼荘の改築事業について、基本的な考えの説明を。

■高野福祉保健部長：魚沼荘は定員 70 名。市内と湯沢町で、待機者が常時 6～7 人程度いる。老朽化と、基準の見直しがあり、居室の広さが 3.3 m<sup>2</sup>から 10.6 m<sup>2</sup>以上で原則一人部屋となったため改築を行なうもの。詳細は今後検討する。

宮下会長　：ほかにご意見がなければ第一章について、了解することでよろしいか。

委員一同　：異議なし

## 二、教育・文化

□中沢委員　：情報館について。いわゆる箱物は関心度が高い。市はどのように進めていくのか。

■井口市長　：情報館と大原運動公園については、内容が煮詰まっていない。市で概略の案を作り、市民も含めた検討会で検討していただきたい。検討の結果、不要ということであれば作らない。

我々は、新市建設計画に載っているものを忠実に、財政が許す範囲でやれるとすればいつ頃、ということ挙げています。議論は色々あるだろうが、建設の可否も含め検討していただきたい。

新市建設計画は大切なもの。その当時の町の意志も入っているので、簡単に感情的に不要とは言えない。そういう思いもあり、財政的にも大丈夫だということをよく説明しながらやっていきたい。

宮下会長　：第二章について、了解でよろしいか。

委員一同　：異議なし

### 三、環境・共生

□佐藤委員　：地盤沈下対策事業は、ハードには入らないものかもしれないが、高感度感知器の設置について、継続的に行なうのか確認したい。

■上村建設部長：道路関係については、H19 に高感度感知器を設置し、効果が上がっている。地盤沈下区域外の周辺地域にも配置して行く。感知器だけに頼るわけには行かないので、消パイリフレッシュ事業でも整備を行なって行く。一般的な住宅については、抜本的な解決策がない。

■井口市長　：道路関係については、今の説明のとおり。駐車場、一般住宅など道路以外の部分では、H21 に全額補助で、地盤沈下のメカニズムについて調査を行なう。一番わかっていないのは、これだけ沈下しても地中埋設物が全く破損せず、沈下もしていないということ。環境省からやっていただける方向で検討している。そういうことも含めて市から環境省への職員派遣も行う。

もうひとつ国土交通省絡みになるが、水を使用せず地中熱などを利用し、電気の少ない熱で雪を溶かすことができないか、山形県舟形町あたりで実験に入っているが、この豪雪の地で可能かどうか、モデル地区に申請している。H21 年に認定される見込み。地下水に頼らない消雪を模索していく。ハード事業には明示していないが一生懸命やっていく。

□関　委員　：旧焼却場解体について。ダイオキシンの危険なものを無害化することになるわけだが、色々見積もりは取っていると思うが、危険なものを扱っているので、金額面だけでなく、安心・安全に重点をおいた事業の進め方を望む。

■桜井市民生活部長：その通りと考える。専門家に依頼し調査中。安かろう悪かろうにならないようにしたい。今の施設からは出ないが、ダイオキシンの調査も引き続き行なう。解体時の飛散防止は重要。慎重に対応する。

□高野委員　：新設備は焼却だけでなくスラグができるとのこと。今後のスラグの利用方法は。

■桜井市民生活部長：スラグについて、今年度末には JIS 規格を取る予定。現在、下水工事・斎場建築など、市の公共事業の埋め戻しなどに活用している。最終的にできたものを活用しながら循環型社会の形成を推進する。さらに JIS 規格が取れ、公共的な認知をいただければ、最終的目標は、それを有価として販売する方向を目指しながら対応していきたい。そのためにスラグのストックヤードは必要。

宮下会長：第三章について、了解でよろしいか。

委員一同：異議なし

#### 四、都市基盤

□腰越委員：財源内訳のその他とは何か。

■北村企画政策課主幹：湯沢町協議案件については湯沢町からの負担金、下水道については受益者負担金をそれぞれ財源に充てているもの。

□佐藤委員：①大原運動公園について検討に入るそうだが、既存施設の改修も含め、運動公園全体としての検討なのか。また、組織的な検討母体は。

②蓄電池設備更新事業について、事業費の更新周期は。

■井口市長：大原運動公園について、用地関係はどうなるかわからないが、野球場とすると今のところではダメだと思う。多目的グラウンドの半分はサッカー場などとして、今のものはサブグラウンドとすることも考えられる。ベースボールマガジン社から、ノウハウについて、バックアップしていただく。既存部分も含め総合運動公園として整備したい。

検討委員会は、体育協会・一般市民なども含め組織する。

□平賀水道事業管理者：蓄電池設備の更新周期は、15 年くらい。コンピューター関係の無停電装置も計画に含まれる。

■南雲委員：流雪溝の水源確保について、本計画分の水源確保は大丈夫なのか。

□上村建設部長：水路から汲み上げて再利用する、また、地盤沈下のないところに井戸を掘り流雪溝に流し込む、あるいは水道水を流し込むなどの方法がある。今、

毎秒 1393 トンの取水だが、もっと水源を確保していかないと安心できない状況。早急かつ、慎重にやりたい。

駅西の本体整備が主だが、以前から、スノーピア事業と抱き合わせで行ってきており、中継ポンプもできている。なるべく早く水源を確保したい。

□黒井委員 : 浄水場の計器類について 15 億円は多額。焼却場の修繕料も然り。もっと他によい方法はないのか。

■平賀水道事業管理者 : それは大きな問題と認識している。メーカーの Patent のようになっており、部品も同メーカーのものが必須で、高額になる。維持管理や次の更新がうまくいくような方法でやっていきたいが現状は難しい。

□黒井委員 : 土改でも施設が色々あり、困っていれば業者が何とかしてくれる場合もある、もう少し努力するよう希望する。

■平賀水道事業者 : ごもつともなご意見。通常、15 億円～20 億円かかるといわれているが、今回手上げ方式にする。

宮下会長 : 今の説明で了解してよろしいか。

委員一同 : 異議なし。

～10 分間休憩～

## 五、産業振興

□腰越委員 : 今泉博物館について、計画を立てるにあたっての課題は何か。直売所の整備や特産品の販売など、民間についての考え方と今後のプランは。また、道の駅の構想は。

■上村産業振興部長 : きちんとしたものは固まっていない。今泉博物館の活用も含めて行なう。管内の指定管理の問題もある。館外の民間の部分については、組織を作って民間にお任せする形になる。その辺が定まらないと、道の駅はトイレを想定しているが、合築の部分がどうなるかわからない。外部コンサルを活用し方向性をみたい。

□腰越委員：道の駅の重要なポイントを占める、地域振興に関わる施設の骨格を固め、次のステップへ進むべき。年度内あるいは来年に結論を出すなどきちんとした形で進めていただきたい。地域振興施設はこれだと言える内容が現状ではあるのか。

■井口市長：現在の構想では、1階は物産館。前後は、道の駅・川の駅として整備し、直売所は、道の駅ができた段階で民間の皆さんから出店していただくなどの形。物産館と観光情報発信施設を今泉の中に設け、中に入ってもらって、2階の博物館もご利用いただきたい。

□峠委員：①今泉のところでは現在、農産物を販売している。観光客が気楽に入れて物産が手に入るというのが理想。その辺も踏まえながら、色々な方々の意見も取り入れ、構想をまとめていただきたい。

②看板整備について。この機会に、民間の看板設置についても、市で統一しつつ、助成なども考えていただけないか。

③スカイラインの展望台の階段が壊れたままになっている。早急に対応を。

■上村産業振興部長：計画・構想の段階では極力そのようにしたい。かつて塩沢町時代からも十数年色々やってきたようだが、提言書が多すぎてまとめられずに今に至ったと思われる。ある程度、市でたたき台を作り示したい。

看板の統一については、屋外広告看板は民間で単独の看板設置はできない。指定の色など、市の考え方をお願いできるものは、市の名称を入れて設置ができるよう統一に配慮している。高速の出口などは統一したいが高額で市では踏み込めない。市の全部負担は無理だが、改めて考えたい。

スカイラインの展望台については未確認。協議会で検討する。

宮下会長：第五章について了解ということによろしいか。

委員一同：異議なし

## 六、行財政改革・市民参画

□井口委員：地域コミュニティ活性化事業について、いつからどのような形態で行なうのか。

■田中総務部長：4月1日から運営の予定。形態など詳細は関係者で協議中。H21年

度予算に計上する。

宮下会長 : 第六章について、了解することよろしいか。

委員一同 : 異議なし

宮下会長 : ここで皆さんにお諮りいたします。原案通り承認することよろしいか。  
答申書は、後ほど承認したとの内容で市長に提出し、皆さんに写しを送付します。

## (2)総合計画の見直しについて 岡村企画政策課長より説明

□井上委員 : アンケートのデータは 1500~2000 人との事だが、20 歳代から 60 歳代など若い世代を対象としていただきたい。

■岡村企画政策課長 : 統計上、2000 人くらいでデータが取れる。対象者については、やっていく中で考慮する。

宮下会長 : 説明の通りでよろしいか。

委員一同 : 意義なし。

## (3) その他

□鈴木委員 : ソフト面だが、国際理解教育について H21 年度から本格実施になるに当り、先生方にも不安があるようだ。予算はかかると思うが ALT を増やし、再来年の高学年への英語導入にスムーズに移行する準備ができるよう善処していただきたい。

■遠山教育長 : 春から、市内 20 の小学校で国際理解教育の授業をやる。小 1 から対象となる。ALT や異文化紹介をしていただける方も精一杯確保したい。予算要求もしている。異文化紹介者については国際大学の留学生にお願いしているが、海外経験の長い方、外国から移り住んでいる方、日本語講座の修了生などからも参加していただき盛り上げていきたい。

□鈴木委員 : 4 月から新学習要領への移行が始まる。社会に必要な方向へ進むものな

ので、準備等遅れのないようスムーズに移行されたい。

■遠山教育長：お話の方向で準備を進めている。

□黒井委員：土地改良区の一員として農家の一員として、日本一おいしいお米作りについて、市からのさらなる支援をいただき、多くの作付け・収穫ができるよう、一層のご努力をお願いします。

塩谷副会長：以上で総合計画審議会を終了します。

(16時30分終了)